

2021 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	末成 妙子	職名	教授	学位	教育学修士 (音楽教育学)
----	-------	----	----	----	---------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
・音楽教育学 ・特別支援教育学 ・幼児の表現	・聴覚障がい児教育 (聴覚障がい乳幼児) ・こども音楽療育 ・表現 (身体・音楽)

研 究 課 題
「こども音楽療育」の立場から、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据えて音楽の実践力をつける方法を研究する。障がいのある子も、そうでない子も、共に活動ができ、発達を促す「表現活動」について研究する。2021 年 7 月に出版した『幼児期の表現活動』の執筆活動を通して、自身の講義の振り返りを十分行うことができた。編者となって執筆していた『障がいのある子どもの保育・教育の実践』は 2022 年 1 月に出版の運びとなった。全国の志のある先生方と執筆を通して、遠隔ではあるが専門分野の意見を交わしながら深くかかわり、学び合う貴重な経験を行うことができた。

担 当 授 業 科 目
保育内容「表現 (身体・音楽表現)」(前期) こども音楽療育概論 (前期) こどものためのピアノ I こども音楽療育概論 (後期) こども音楽療育実習 (後期) こども学基礎演習 (通年) こども学特別演習 (通年) 保育総合表現 (後期) こどものうたあそび (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【こども学基礎演習】 教務課のご尽力により対面授業と WEB 授業が臨機応変に計画され、学部全体で決まっていた年間の流れも調整されながら、充実した活動ができた。末成ゼミとしての特徴は音楽を中心に据えるということであったが、リズム室で器楽合奏をしたことが学生は楽しかったようで、音楽があまり得意でない学生も笑顔で参加した。こどものうたを題材に WEB で効果音を作りながらお話を作り、演じた。初めての試みだったが大変よい活動になった。後期の「お話し発表会」では、ゼミ長を中心に発表の流れを考え、学生が自主的に準備して臨んだ。キリスト教教育を根幹に据える本校の姿勢は、クリスマスに向けての学びを通して本ゼミ活動でも十分に学生に伝えることができたと考える。
授業科目名【こども学特別演習】 対面授業が可能になった時期は、ゼミ生の希望から、子どもの歌の伴奏を練習した。時間にゆとり思っピアノに向かい、それぞれが就職試験でその力を発揮した。音楽は苦手という学生がほとんどだったが、就職後考えると自然に力が入り、コード記号を復習し、歌いながらの和音伴奏など工夫して、互いに聞き合う日を設けても楽しむことができた。 後輩との交流が本年度は少なく、その点は残念だったが、ゼミ生どうしはコロナ禍の不安を払しょくするよ連絡を取り合っていた。
授業科目名【保育内容「表現 (身体・音楽)」】 「劇あそびに音楽あそびを加える表現」を本科目のまとめとして設定し、全体の授業を構成した。リモート

ではありながら、学生がお互いの表現活動を考察する授業を展開した。知っている楽曲はもちろん、身の回りのものを使って音の響きを確認めて、工夫したことを披露し合った。お互いの良い点を見つけ合い、子どもにとって表現することの大切さを学んだ。表現の環境を整えるということについても考えを深め合うことができた。
授業科目名【こども音楽療育実習】 昨年に引き続きリモートで市内の園とつなげて音楽療育の実践を行った。コロナウィルスの感染が収まらず、リモートで触れ合う企画の2年目で、本年度は昨年より参加園が増えて対象園が4園となり、4園を同時につなぐ試みも行った。一つのグループは絵本「れんけつがっちゃん」をもとに楽器紹介、楽器当てクイズをしてさいごに合奏した。また別のグループは「まほうのでんしレンジ」を劇に仕立てて身体表現遊びや、子どもとのやり取りのできるおしゃべりクイズをして、子どもの反応を肌で感じて音楽療育活動を行った。Zoomでのリハーサルを重ねたことで、園のホールに設置されたスクリーンの前に集まる園児たちと共有した時間を過ごすことができた。学生たちは園児の反応を画面で見ているので双方向のやりとりも大変スムーズに進めることができた。 学生は3つのグループに分かれて3つのセッションを行ったので、園児さんとは多いところで3回も会うことができたので、回を追うごとにこの仕組みに慣れて楽しむ様子が実感できた。
授業科目名【保育総合表現】 学生による舞台発表は本番1週間前で残念ながらオミクロンの感染拡大により諦めざるをえなかったが、そこまでの準備は大変完成度の高い素晴らしいものに仕上がっていた。セリフはもちろんのこと、劇中の曲作り、効果音、大道具小道具・衣装の制作と、メンバー全員が誰も力を抜くことなく、他人任せにせず全員が力いっぱい制作に携わった。台本の作成、ポスターの印刷などすべて学生の手によって作り上げられ、この力は必ず職場に出てからも生かされると確信している。次年度の総合表現で、ぜひ今年の2つの劇を実演してほしいという願いが聞かれた。本番1週間前のリハーサルの模様を録画しておいたことが功を奏し、来場をお願いしていた付属シオン山幼稚園にもそのDVDを届けることができ、学生一人ひとりにも手渡すことができた。
授業科目名【こども音楽療育演習】 音楽の多様な力を使った様々なセッションについて解説した。この授業では障がいのある子とかかわるときに音楽をどのように使ったらよいかということを検討し、将来自分が現場で使えるセッションができるようになることをめざした。障害のある子にとって一つの大きな壁ともいえる言葉の領域についても理解を深め、また、個に応じた適切な配慮について考え、実際の楽曲を使って楽器の効果的な使い方を実演した。ピアノにとられず様々な楽器を使うことで音楽の世界が広がることを実感できたという声が多く聞かれた。
授業科目名【こどものうたあそび】 予習・復習をして、子どもの歌にできるだけ親しむように、何度も講義の中で促した。コロナ禍でも保育園・幼稚園では音楽を使った活動があるので、音楽を使って手や指先、からだを動かして遊ぶことを身に付けてほしいと考えている。音楽を通した活動は人間関係を深めていくことにつながり、そうした遊びの中からこどもの「協調性」や「感性」が育つ。わらべ歌から最近のこどもの歌まで、限られた時間の中で、どの曲を学ばせるかは、十分に精査して講義を進めた。リモートでありながら各家庭から互いに励ましあったりして伴奏を積極的に行ってくれたり、個性のある遊び方を披露してくれたり、保育科らしい発展的なリモート授業になった。「はじまりとおわりのうたあそび」「指や手の動きを楽しむうたあそび」「体の動きを楽しむうたあそび」「行事や生活のうたあそび」「集団で楽しむうたあそび」などテーマを絞った学びも有効だったと考える。
授業科目名【こども音楽療育概論】 未成の行ってきた教育実践を多く取り入れて講義を進めた。聴覚障害について、生活するうえの様々な不自由さを理解し、事例を示しながらその支援の方法を伝えた。インクルーシブ保育を展開するために音楽の力を使って障がいのある子どもへの働きかけ方を学んだ。受講する学生は入学時からこの科目に強い関心を持っているので19名の学生は向学心を持ち、緊張感を持っていた。回を追うごとに積極的な調べ学習や取り組みが見られた。発達障がいを含めた多様な障がいの実態を知り、重度・重複化する子どもの障がいを理解するために、具体的なエピソード、体験談を交えながら講義を進めた。
授業科目【こどものためのピアノⅠ】 本年度からテキストを教育芸術社の「大学生のためのピアノ教本」を変更して、バイエルにとらわれない幅広い選曲が可能になったのは大変良かったと思う。入学して間のない学生がピアノへの不安や練習についての孤独感を感じないように、指導での言葉かけに細心の注意を払った。さまざまな相談、練習方法の悩みなどが気

軽に話し合える雰囲気作りを心掛けた。途中からリモート授業になったが、学生はとても積極的でよく練習し、まじめにピアノに向かって動画を送ってくれて練習を頑張っていた。対面での試験も優秀な成績で、これからが楽しみであると確信した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本音楽教育学会	正会員	2011 年～現在に至る

2021 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 幼児の音楽表現	単著	2021 年 7 月	白峰社 (178 頁)	第 1 章では「幼児期の表現」、第 2 章ではその実践、第 3 章では音楽活動が子どもの自己肯定感、コミュニケーション力、社会性を高めるという観点から「こども音楽療育」について述べ、第 4 章で「聴覚障害支援教育」について述べている。聴覚障害の子どもの支援、音楽を通しての言葉の獲得、音楽によるコミュニケーションについて解説している。
障がいのある子どもの 保育・教育の実践	共著・ (編者)	2022 年 2 月	学友社 (203 頁)	3 人の編者の一人としてこの本を上梓した。項目立てから著者の選考、校正、索引立てまで行った。保育士幼稚園教諭を目指す学生がインクルーシブ保育を展開する力をつけるための大学生向けテキストである。事例、イラストを多く用いて保育実践に結び付きやすい内容になっている。
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
国際交流委員会	副委員長 留学生選考の面接試験において試験官を務めた。
公開講座委員会	委員長
学生委員会	副委員長
7月18日（日）	オープンキャンパスにおいて模擬授業開催「体験！こども音楽療育士」
8月18日（水）	教員免許状更新講習 講師 選択領域「こどもの可能性を広げる保育者の援助」 「幼児の発達を促す音楽あそび」
12月7日（火）	北九州市民カレッジ 講師 テーマ「音楽と私たち」
3月15日（火）	高内進路ガイダンス 講師 宇部西高等学校

以上